

Meiji Gakuin Alumni Association News

明治学院同窓会 News

2015
APRIL

DO FOR OTHERS 第14号より抜粋



明治学院同窓会
Meiji Gakuin Alumni Association

“Do For Others” の実践者
「小平ファミリー」 小林るつ子さん、大いに語る！

おもちゃ図書館の夢を抱いて

執筆者 生江有三（法学部第一期生・ノンフィクション作家） インタビュアー 加藤斗紀子

親族の紹介

小林るつ子さんの家系は明治学院出身者が多い。「理由はわかりませんが、学院は開明的な校風だったし、クリスチャンが多かったからかもしれないですね」叔父の小平尚道（牧師）は中等部卒業後、東京神学校に進むも、米国2世であったため収容所に入れられる。もうひとりの叔父小平磐夫は中学受験の際、麻布中学に合格が決まっていたが、当時の矢野貴城総理の「明学は政財界人を育てるのではなく、何歳になっても友人としていられる人間関係を築ける学校

である」との一言で明治学院中学に入学を決めたという。その後磐夫は立教大学に進み、やがて米国トヨタの初代会長になる。るつ子さんの父親小平利勝も中等部出身である。東大に進み、読売新聞の外報部長を勤める。「やがて米国で初代のワシントン支局長をして帰国。そのまま外務省に入ったんです」帰国後は何をしていたのか不明だったが、その姿がほのかに垣間見えたことがある。「戦時中ですが千葉・九十九里の沿岸に粗末な別荘を持っていた。そこへ疎開を兼ねて遊びに行き、波とたわむれていたら、突然父がやってき



小林るつ子

経歴：81歳、本学英文学科卒、現在聖徳大学兼任講師、おもちゃコンサルタント

横浜図書館リニューアル、
4月オープン！
―同窓生の来館大歓迎！―

加藤斗紀子 記

明治学院大学横浜校舎が1985年戸塚に開校し2015年30周年を迎えます。2015年4月に新図書館として図書館全面改修が2014年から始まり、2015年4月に新図書館としてオープンします。横浜図書館で勤務する卒業生の主任秋山美佐子さんと太田修造さんにお話を伺ってきました。

学修支援環境整備

私達が利用した図書館とは参考書を広げながらレポートの作成をし、会話など考えられず静かに一人で過ごす場所でした。そんな今までのイメージを一新し、新しい横浜図書館は学ぶ場から、仲間作りにまで発展する、楽しくて誰もが利用しなくなる空間になります。何よりも重きを置いたのは、大学生の学び方の変化に対応した学修支援環境の

整備です。授業自体も受け身の授業から、能動的な学習が増え、グループで取組み、成果を発表するようになってきています。図書館の敷居を低くし開口を広げるために館内を「動と静」にゾーニングし、敢えて1Fを「アクティブフロア」として全てが見通せる開放的で相互刺激性のある空間とします。机や椅子は可動式で、学生自身が話しやすいスペースを作っているようになり、ICT環境も整備されます。2Fは本を探し楽しむブックスケープというユニークな書架の形状で表現し、従来の静かなエリアも用意され、一人で集中出来る閲覧席が設けられます。勉強に疲れた時やちょっと気分転換をしたい時にホッと一息できる場所として軽飲食可能なコーナーも設けられます。また、パソコンのセルフ貸出機も設置されます。学びの変化



小平利勝（明治学院中学卒。読売新聞 初代ワシントン支局長）と、るつ子さん



小平盤夫（明治学院中学卒。初代アメリカトヨタ会長）

て静かに言うのです」

今は何もない静かな海だが、見えない海の向こうには敵艦船がひしめき合っている。危険だ。東京に戻ろう。「帰京後、1週間もしないうちに九十九里一帯は空襲を受け、私の学んでいた小学校にも直撃弾が落ち、跡形も無くなったということです。父は情報関係の仕事で無線の傍受をしており、それを聞いていて危ないと思ったのでしよう」

明治学院大学に編入

新しい時代の中でのるつ子さんは香蘭女学校に進学後、玉川大学に進むも3年で明治学院大学に編入学する。やがて乳児用の輸入おもちゃのカタログ翻訳でこどもたちと接するようになる。

そして結婚。夫は古河アルミの技術者畑で転勤が絶えなかった。数回の転勤の後、近江八幡（滋賀県）に行った。「風光明媚な地域で水も空気も澄んでいるところです。でも、当時、そこは貧困問題、部落問題などが山積していたんです」しかも、母親たちの話を聞くと、自分のこともどんなおもちゃを与えていいかわからない。発達障害。情緒障害。

自閉症。遊んでいる子どもたちの母親がじつは深刻な悩みを抱えていた。数年後、東京に戻ると、るつ子さんは母校明治学院大学に向かった。「わたしはこどもが大好きだけど、こどもを取り巻く状況を何も知らない。そ

れで社会福祉学科の各課程を学ぶ聴講生として通うようになったんです」聴講生活は1年近く続いた。

「おもちゃ図書館」オープン

その間に英国へ行き、「トイ・ライブラリー」が全国にあることを知った。そこで遊ぶこどもたちの喜ぶさま、それを見つめる母親の優しい笑顔。

まもなく、るつ子さんは地元の東京・三鷹にわずか六畳ひと間の「おもちゃの図書館」をオープンする。

それが今、全国に500ヶ所以上を越えようとしている。2000年、おもちゃの図書館全国協議会は「玩具福祉学会」と名を改め、玩具を専門に扱う「玩具療法士」の育成をはかるようになった。「おもちゃの図書館を知って、ほかの人々とも交流しあい、それが地域で生きることを支える力になれば、それがいちばんいいことだし、大事なことだと思っんです」。るつ子さんの魂には今も「DOFORTHES」のスピリットが根づいているのである。



館長あいさつ

明治学院大学図書館長 秋月 望

を支援するために施設面だけではなく、運用面でも学生が興味を抱く工夫を既に行っています。その1つの例として、「高校生から大学生へ」「語学書」「学生選書」など教職員、学生が選書した資料を入口付近に並べるなど興味を持ち楽しみながら勉強出来、本を読ませる工夫が随所に見られます。新しい図書館でも蔵書の見せ方に、より工夫を凝らします。

仲間作り活動の企画・・・ 「朝カフェ講座」

なお、同窓生でも所定の手続きの上、利用可能です。同窓生の来館は大歓迎！とおっしゃっていましたので、ぜひ皆さん、新しい図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。

改修情報は、図書館Web「横浜図書館改修のお知らせ」をご覧ください。

<http://www.meijigakuin.ac.jp/library/about/yokohama/>

図書館長の秋月です。横浜キャンパスができて28年、図書館もリフォームが必要になっただけでなく、様々な学修ツールの便利さが活かせ、グループ学習など新しいニーズにも対応できる機能の充実が求められています。今回、図書館を改修して、これからの時代を先取りする新しい図書館として生まれ変わります。利用者各位のご理解とご協力をお願いします。

支部ブロック紹介

全国にある支部を順次ご紹介しています。今号は、静岡県西部支部です。それぞれが情報交換の場として独自の企画・イベントにより、皆さん楽しんでおられます。支部会にはどのような方がいらっしやるか、また参加される方々がどのような思いで参加されているか、ご紹介いただきます。

静岡県西部支部

「英文学科卒業生座談会」 ～浜松に息づく明治学院の英語～

1993年卒業
鈴木佳寿美

2014年10月19日(日)、英文

学を卒業した30代から60代の女性

6名が出席して、浜松市内で座談会を開催しました。この座談会は、明治学院で英語を学んだ同窓生が、自身の英語に関する体験や現在の英語との係わりを語り合う事で、今後の英語との係わりの糧にする事、ひいては各々のレベルアップに繋がる事を期待して開催されたものです。

出席者は、塾の英語講師、海外での就業経験者や中学・高校での英語講師経験者、また仕事現場において英語と係わっている人など、大学卒業後も何らかの形で英語に触れ、英語に対する高い関心を持ち続けてい

る方々ばかりです。
同窓会本部から、英文学科卒業の大嶋国枝副会長、そして、アドバイザーとして長年、米国松下電器会長として活躍され、現在は明治学院大学学長特別補佐の岩谷英昭様にお越し戴きました。

トピック

学生時代の英語体験

在学中、英語力はE.S.Sで鍛えられた、という人がいます。E.S.Sでは、毎日グループごとに40分間、英語だけで会話をする時間が設けられ、また、明治神宮で外国人と話す事を義務付けられ、その活動を通して、



聞く力がアップしたといいます。

その一方で、授業では、ライティング、リーディングに重点が置かれ、リスニングがおろそかになっていたという人も。卒業後、TOEICで800点を取ったが、会話力には自信が持てないとの事。他のアジア圏の人達は間違いを恐れず英語を使う勇気がある、会話力をつけるには、度胸をつけることも大切だと痛感しているそうです。

トピック2

経験から見えてきた これからの英語教育の 在り方・英語との係わり方

現在、中学の英語教育の現場では会話や現地の英語を意識した内容になり、本当の英語力、文法力はこれで良いのかと疑問に思う、という意見がありました。自宅で英語教室を開いている人は、学校で教えていない文法を生徒に教えると喜ばれる事があるといえます。

また出席者の中にも、中学・高校で文法をみっちり学習したおかげで、助けられる事があった、という人も。とはいえ、「9歳の壁」とい

われる様に、9歳を過ぎると恥じらいが出て、外国人や英語を話す事に對して拒否感を持つ傾向がある為、年齢に応じた英語との付き合い方が大切。小学生のうちは、時には日本語も織り交ぜた人形劇等で楽しく英語を学んでもらう機会を作ると同時に、子供それぞれの状況判断から間違った表現を覚えてしまう事がない様に、きちんと教える事も重要。そして、中学生になれば文法をきっちり押さえしていく必要がある、という事が共通意見でした。いずれにしても、小学校における英語教育は今、過渡期にあり、これからどうすべきかを考える重要な時期だといえます。

アドバイザーから

これからの英語教育に 大切な事

英語を外国語と考えない事。まず、聞く事が大事であり、例えばテレビで話者の口を見てまねてみる事も一つの方法。もちろん、教育現場では文法を無視してはいけません。同時に、意味を教えるだけでなく、言い方を教える事も大切。幼い子供には、やはり英語に興味を持たせる事も大切。勉強すれば表現力がなくても、言い

たい事が伝わる。英語力の基本は速読できる事と、書く事。聞く力をつけるには、アジア圏の人が話す英語も含め、生の英語に触れる機会を多く作る事が必要。

今後に向けて

今回の座談会では、様々な意見が活発に交わされましたが、まとめると以下の様な事になります。「教育現場では文法が重要」「文法を気にしすぎて話せないよりは、充実した内容を言葉に出す事が大切」「英米だけでなく色々な国の人の英語を聞く事も必要」「幼い時から英語に興



大嶋副会長、岩谷学長特別補佐と出席者一同

味を持たせ、ネイティブの英語に触れさせる」「成長する段階で英語嫌いにさせない、楽しく思わせる」この座談会が今回限りになる事なく、意見交換の場として継続していく事を考えています。

座談会に寄せて

学長特別補佐 岩谷英昭

今回、英文学科を卒業された方々で、主に英語関連で仕事をされている皆さんが集まりました。大学として期待するところは、これからのグローバル教育を担っていただく先生方を、明治学院の長年の経験からサポートしていく、という事です。とにかく英語の勉強の必要性は感じているが単に英会話だけで良いのか、基礎的な文法から入ってビジネスで使える英語を教えるのか、中等教育の現場に立つ先生にとっては、悩ましいところだと思います。就職の事だけを考えると、TOEICの点を上げるのが急務かもしれませんが、心をつかむコミュニケーションに至るまでには長い道のりがあります。意義ある明治学院同窓生が、英語の先生たちがリーダーシップを取ってくれる事を大いに期待します。

明治学院中学東村山高等学校同窓会 「活躍する東村山同窓生」

同窓会長 森野光生



2014年東村山校『へボン祭』にて、同同窓会主催の講演会で登壇してくれた高尾千穂さん(37期生)と孫校長を囲んで

昨年の今頃は、世界中が「ソチオリンピック」直前で湧き上がっていたころだったと思います。そのソチオリンピックに東村山高校の同窓生(女性)が出場しました(スキースロ―プスタイル日本代表)。ホームベ―ジ等をご覧になってご存じの方もいらっしゃるかと思います。結果は必ずしも満足のいくものではなかったと思いますが、怪我を押して全力で臨んだ姿にはスポーツの持つ清々しさを感しました。

彼女には早速、昨年の秋の母校記念祭での同窓会主催イベントで、講演をしていただきました。スキー用具やユニフォームなども持ってきて下さり、誠実な人柄が現れた、とても良い雰囲気での講演会でした。今年はフリースキースクールの校長やパックプロデューサーなど活動の幅を広げていく予定と伺っています。

益々のご活躍を期待したいと思います。

ところで、1月12日は成人の日でしたが、5、6年前でしょうか、学校から、高校卒業後2年目の卒業生が、自主的な企画で「成人を祝う会」を母校で開きたいという話があるので、同窓会で何らかの援助ができないかと問合せがありました。早速役員会で承認し、翌年以降もほぼ毎年申請があった場合にはこの活動に援助しています。実は1月9日、今年のこの会の責任者2名と会いました。学部は違いますが二人とも明学生で、それぞれ人生設計をしっかり描いていて大変感心しました。

今後は今回のように、新しい卒業生とのパイプを作り、少しずつその実をあげていきたいと思っています。今後とも東村山同窓会をよろしく願っています。



「台湾同窓生」訪問・交流記

文責 麓 良久



「台北101」台北市のランドマーク

旅行のいきさつ

2014年11月23日より26日まで、個人的な旅ではありましたが、同窓生10名にて台湾への旅行を行いました。（横浜支部の大澤哲夫氏ご夫妻、同じくヘボンクラブの中富頼隆氏、学長特別補佐の岩谷英昭氏、横浜支部の川久保幹男氏、近藤直利氏、白金経済人会の田中俊彦氏、同窓会本部理事の小暮幹雄氏、加藤純夫氏、及び麓良久）これを機会に、台湾同窓会支部長の蔡玉柱氏と同期の大澤哲夫氏と中富求隆氏との関係から同窓生として旧交を温め、台湾在住の同窓生、更に2014年3月に97歳

で召天された王金河氏の表敬訪問とお子さま方との交流をもちたいと念願しておりました。また、幸いに、今回の台湾旅行は94年度入学の呉姿瑩娃氏が現地旅行会社の副社長をされている関係から、観光のすべてを手配して戴き大いに助かりました。

支部長のお見舞い、歓迎晩餐会

台北での初日は、蔡玉柱支部長が急遽入院されておられたので、全員「仁愛病院」へお見舞いに伺いました。病室には蔡玉柱氏のお嬢様がお二人付き添っておられました。ご本人はとてもお元気で我々の訪問に大変



訪台メンバー&台湾在住同窓生

お喜びの様子でした。2013年の秋、明治学院東村山高校で生徒達にご講演をされた時のように、お元氣になられるようにと励まして、病院を後にしました。台北での二晩にわたる歓迎晩餐会は、あらかじめ蔡玉柱支部長がお嬢様を通じてご手配をして下さり、その両日とも台湾大学にて教鞭をとられている長田正民氏や、満實国際有限会社社長の荒川信一氏等々のまさに活躍されている若い同窓生との交わりをもつことが叶いました。

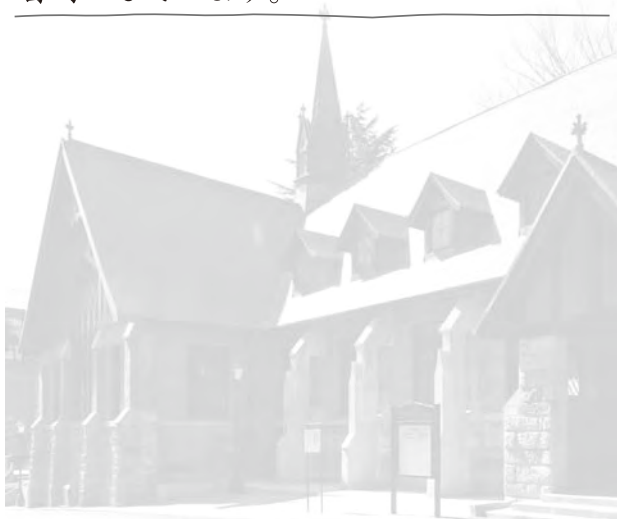
王金河氏表敬訪問

台南では3年前、当時の学長大西晴樹先生よりチャペルにて名誉学士号を授与された、王金河氏の台湾烏脚病医療記念館を表敬訪問いたしました。郊外にある記念館には明治学院名誉学士号任命証と名誉学士のガウンが陳列ケースに展示されておりました。そして、我々の表敬訪問を大変に喜んで下さり明治学院に対して9万元（約40万円）のご寄付を申し出られ、元々王金河氏を蔡玉柱氏から紹介を受けて学院に繋いだ、当時総務担当理事だった岩谷英昭氏と固い握手をされました。今回の旅行では、台湾の同窓生との温かい交流がもてたこと、そして「これからは台湾での若い同窓生達との関係を築きたい」という熱い言葉を胸に一同帰途につきました。



王金河氏の娘さんと学長特別補佐の岩谷英昭氏

株式会社明治学院サービスは、
学校法人明治学院の100%出資会社です。
学校の周辺業務を事業化し効率的効果的な
各種サービスの提供を行い、
その収益を教育事業に還元することを
目的としています。



【主な業務内容】

◆人材派遣ビジネス

明治学院（明治学院大学、高等学校、中学校等）及び教育機関や他大学を中心に学校事務に特化した人材派遣を行っています。学校関連企業として相応しい質の高いサービスの提供に努めています。

◆明治学院白金チャペルでの結婚式

当事者のいずれかが、同窓生、現・元教職員、法人役員またはそれらの近親者の方であればお申し込みいただけます。本学はプロテスタントのキリスト教信仰を建学の精神としており、礼拝に準じる儀式としての挙式を行います。

◆学生総合保険・海外旅行傷害保険・火災保険・自動車保険（バイクを含む）・医療保険などの代理店業務を行っています。

◆白金校舎パレットゾーンの食堂・横浜校舎のインターナショナルカフェの運営管理をしています。

◆新入生・在校生に対するお部屋探し・住替えのご相談受付、明治学院大学女子寮「セブンレンス館」の運営管理をしています。

◆大学ロゴグッズ、バッハアカデミーのCD、自動販売機での飲料の販売をしています。



株式会社 明治学院サービス

〒108-0071 東京都港区白金台1-2-37

Tel 03-5421-1555 Fax 03-5421-1556

URL: <http://meijigakuin-s.co.jp/>

【お問合せ先】

明治学院同窓会事務局 〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37 TEL 03-5421-5190 (FAX 03-3441-0970) (事務取扱い時間 10:00～16:00)
<http://www.meijigakuin-dosokai.jp/>